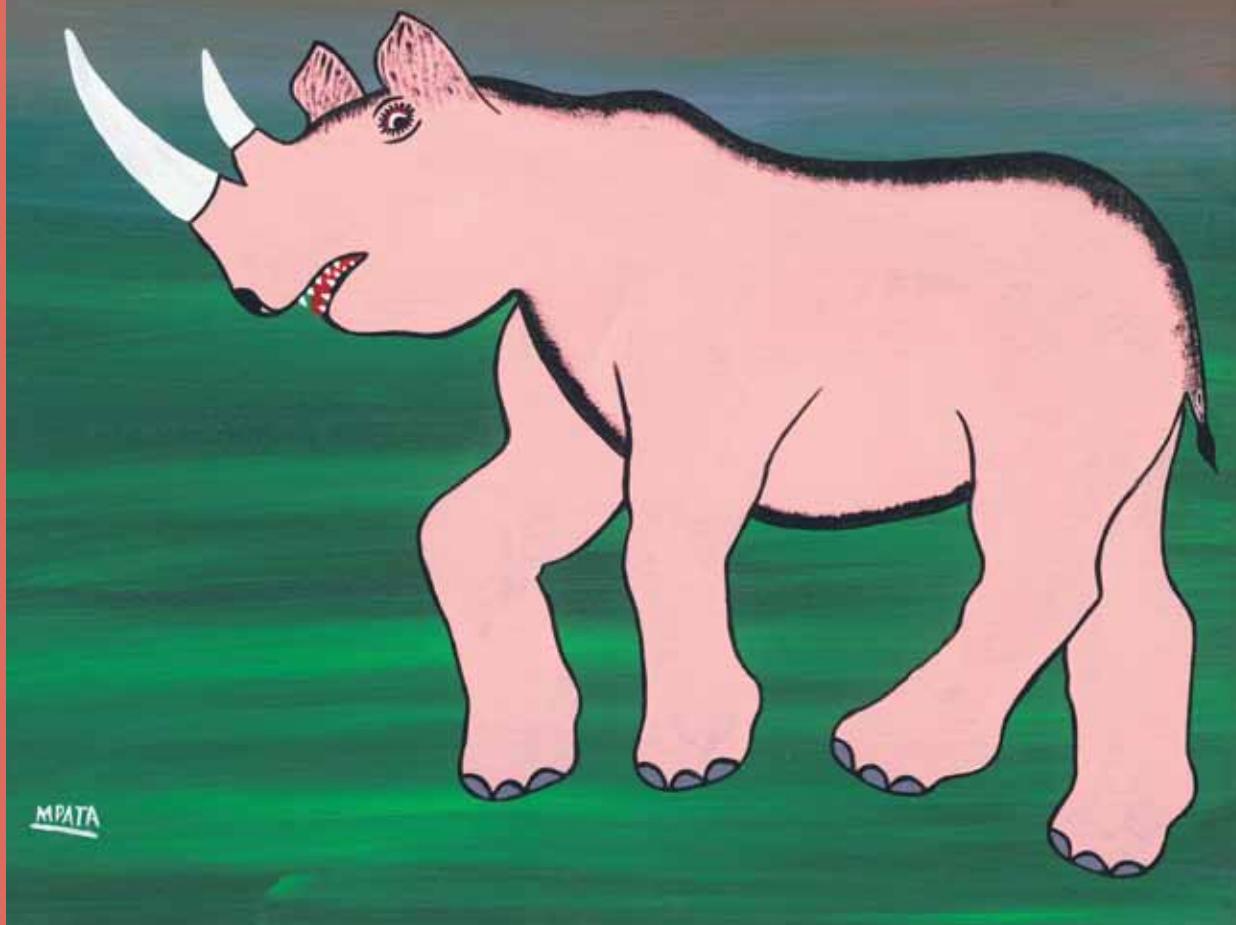


アフリカンプリミティブの雄 ムバタ没後 30年展



「足を上げたサイ」(89×90cm、キャンバス／アクリル)

2015.7.7 [Tue] — 9.13 [Sun]



アフリカの大地が生んだ異才の画家 S.G.ムバタ

ティンガティンガ派の創始者である兄、E. S. ティンガティンガから直接絵画の手ほどきを受けた、第2世代にあたる。自由な色彩とモチーフ、不思議な色づかいと愛らしい表情で描かれる動物たち、ムバタという画家が描いた絵画には、一度目にしたら忘れることのできない強烈なインパクトと共に、見る人たちの心に美顔を宿らせる。そんな不思議な力を持っており、アンディー・ウォーホルやキース・ヘリングといった現代アメリカ・ポップ・アートの巨匠たちからも高い評価を受けた。

主催 | S.G.ムバタリ・クリエイト展 実行委員会 後援 | 駐日ケニア共和国大使館 協力 | あんど弥

【開廊時間】
11:00—18:00

【休廊日】毎週火曜 ※入廊は閉廊の30分前まで。
【入場料】大人1,000円／小・中学生500円(税込)

【会場】
永井画廊 4・5・8F

〒104-0061 東京都中央区銀座4-10-6
TEL:03-3547-9930 FAX:03-3547-9778
E-mail:info@nagai-garou.com
東京メトロ日比谷線・都営浅草線 東銀座駅 A2出口より徒歩30秒

ティンガティンガアートを
代表するS・G・ムバタの
原画約30点を一堂に展示。



—没後10年— 塔本シスコ展

Shisuko Toh moto 1913-2005

2015.7.7 [Tue] — 7.30 [Thu]



Concept

53歳から独学で絵をはじめ、以後約40年間、生きとし生ける物達をあたかく見つめ、対話をしながら描き続けた膨大な遺作の中から厳選した約30点による稀少な展覧会。生姫、瑞々しい子供の感性のまま、天与ともいえる緻密な描写力、斬新な切り口で描いた純朴、素朴な絵画は、アンリ・ルソーらに連なる現代を代表する素朴派です。素朴派の美術館として知られる世田谷美術館、ハーモ美術館などでも展覧会が開催され、評価され始めています。私は塔本シスコを、グラシマ・モーゼス、丸木スマラと同様に美術史に残る“スーパーおばあちゃん”として広く世に聞いていきたいと思います。 永井龍之介

【開廊時間】
11:30—19:00

【休廊日】日祝
【会場】

永井画廊
1・3F

入場無料

ごあいさつ

アンリ・ルソー（1844-1910）に注目しています。
ピカソは生涯ルソーの代表作を手元に置き、敬意を持ち続けていました。
10代にして古今の名画を凌駕し、以後自身の仕事を壊しては新しい挑戦を続け、20世紀アートをリードしたピカソが、
その画家人生において唯一描けなかったのが子供の絵です。晩年ピカソは「ついに子供の絵が描けなかった」と述べています。
その子供の純粋な感性に満ちあふれた絵画を描いたのがルソーです。ピカソは若い頃からそれを見抜き、亡くなるまで目標としていました。
20世紀がピカソの時代であったとすれば、21世紀はピカソが越えられなかったアンリ・ルソーに連なるアートが
待望される時代になるという予感があります。素朴派、プリミティブアート、アールプリュット等。
今回、日本の塔本シスコ、アフリカのS.G.ムバタを取り上げますが、
アメリカ、ヨーロッパ、オセアニア等、<ポストルソー>のアーティストが出番を待っています。
私たち大人が忘れてしまった純粋、素朴、なにものにもたらわれない原始の心をもった地球上のアートを発信し続けていきたいと思います。

永井画廊 永井龍之介

暗い時代を照らす巫女的ポジティブ。

世の中には時おり快女というべき者が出現する。思いつくところでは山中神社への石段を登っている最中に子を孕んだと言った「踊る宗教」の北村サヨ。

アメリカ留学中の息子に書いた稚拙な文字の手紙が、今では「真心の書」として書道家にさえ崇められている、無学で字を書くこともままならぬ野口英世の母シカ。

独学で他に例のない自由奔放な数々の“自然絵”を残した原爆の図の丸木夫妻の母スマ。

海外では素朴画のグランマ・モーゼスやガーデニングの仙人、ターシャ・チューダー。

いずれも老女の境地だが、このような快女がひとたび表現の世界に入るとそこには男性には及びもつかない巫女的なパワーが炸裂する。

今回永井画廊で取り上げる塔本シスコという画家（本人は画家という意識はないのかも知れない）のことは知らなかったが、数点の肉筆と多くの図版に接すると、またここにも快女が居たとの思いを新たにする。

五十三歳からとつぜん独学で絵を描きはじめ、九十二歳まで描きつづけたという。

丸木スマも同様だが、こういった人生の後年になってとつぜん絵を描きはじめた女性の作品には絵のセオリーやルールというものが存在せず、そこにはまるで子供世界の自由奔放さが満ちあふれる。子供絵と異なるのは表し出す形や色彩にそれまでの長きに渡る人生の厚みがにじみ出るところである。そしてまた善悪を超えた世界の賛歌である場合が多く、塔本シスコの絵も一点の曇りなき世界の、そして人生の賛歌である。

シスコの絵を見ているとすべての人間が明るい性善説を生きているようでハッピーになる。そしてこのような巫女のポジティブこそがどんよりと曇った今の時代には必要だとの思いを強くするのである。

藤原新也（写真家・作家）

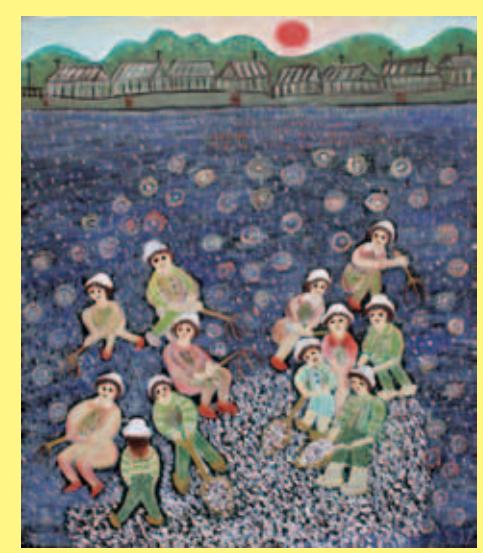
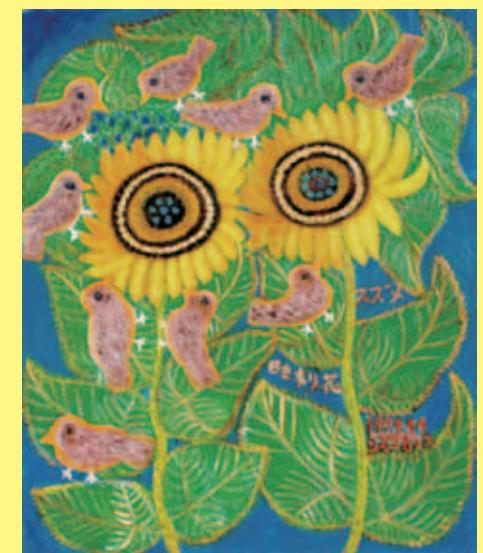
「—没後10年— 塔本シスコ展」

会期 | 2015年7月7日(火)～7月30日(木)
開廊時間 | 11:30～19:00 日祝休廊
会場 | 永井画廊1・3F

History

1913(0歳)熊本県宇城市の農家に9人兄弟の長女として生まれる。
父から、若い頃のサンフランシスコ行きの夢を託され「シスコ」と名付けられる。家の手伝いのため小学校4年生で退学。
1933(20歳)塔本末藏と結婚。長男賢一、長女和子
1959(46歳)夫・末藏事故死。
1961(48歳)脳溢血で倒れる。
1966(53歳)絵を描き始める。
1971(57歳)大阪府枚方市で長男夫婦と同居。3人で絵を描く生活。
以後、団地の四囲半のアトリエが生涯の制作場所。
2005(92歳)逝去

[出展Information]
「芸術と素朴展」(世田谷美術館1996)／「三人のグラントマ展」(ハーモ美術館2009)／「生誕100年塔本シスコ展」(宇城市不知火美術館2013)／「アンリ・ルソーから始まる素朴派とアウトサイダーズの世界展」(世田谷美術館2013)／「岡本太郎とアールプリュット 生の芸術の地平へ展」(川崎市岡本太郎美術館2014)／「塔本シスコ展 こどもの心を持ったおばあちゃん画家」(文化フォーラム春日井2015) 等

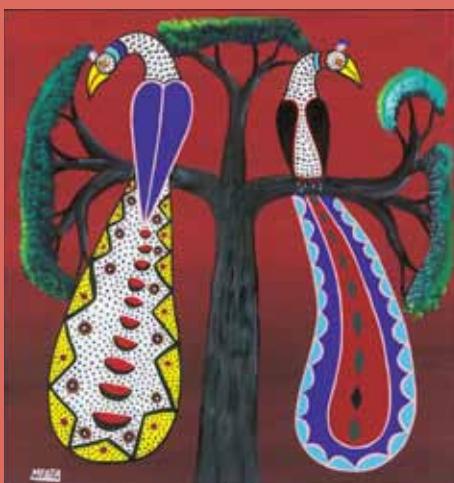


ムバタに帰ろう —80年代の忘れ物

20世紀の芸術家たちがアフリカに憧れてきた理由が、アフリカの人々が変わらず持ち続けた「原始」が実は文明の始まりなどではなく、その最終形を表しているものだったからではないか、と感じてしまう。その証拠にムバタの作品に存在する色彩と描写の洗練度はその点で世界的にも評価の高い日本の浮世絵にも匹敵するものであるし、特に背景のグラデーションと対象をとらえる目線の角度は何も知らぬ原始では到底到達できるものではなく、私たちがアフリカに見る原始が実は豊饒なコンテンツが凝縮されたものであることがわかるだろう。それはムバタの絵が私たちにもたらす最大の意識改革のような気がしてならない。

ムバタは幸福に生まれたわけでもなく、幸福に死んだわけでもない。サバンナがいつも彼にやさしかったわけでもなく、都市が彼を癒してくれたこともなかつただろう。しかし、ムバタの作品は大都市に生まれて、いわゆる成功を手にしたバスキアの作品よりもはるかに明るく、喜びに満ちている。所謂人間の文明を進化させたといわれる近代において、私たちは芸術という名のもとに不幸しか感じない物質文明を感性の中に生じさせたのかもしれない。バスキアたちが去って、アートは再び美術館や画廊に戻り、造形表現の世界は現代美術という概念的背景もない言葉でいたずらに過去との幸福な関係を断ち切ってしまうような状況を呈している。中途半端な知的スノビズムに陥るよりずっと幸せだった芸術の在り方を不幸だったムバタの作品は見せてくれていると思う。

伊東順二（美術評論家）



「アフリカンプリミティブの雄 ムバタ没後30年展」

会期 | 2015年7月7日(火)～9月13日(日)
開廊時間 | 11:00～18:00 火曜休廊
入場料 | 大人1,000円／小・中学生500円(税込)
会場 | 永井画廊4・5・8F

History

1942年 タンザニア生まれ。ティンガティンガ派絵画の創始者、エドワード・サイディ・ティンガティンガは異父兄。
1968年 最初の妻と結婚、この頃より、兄に師事して絵を売り始める。
1972年 ナイロビのギャラリーで絵を売り始める。
1984年 8月、泥酔状態のまま放浪の旅に出る。
11月、ニューヨークにて個展開催。
1986年 サイモン・ジョージ・ムバタの死亡を確認。墓石に「Born in 1942 Died in 1984」と刻まれている。

Floor Map

9F 事務所
8F ムバタ展
7F テナント
6F テナント
5F ムバタ展
4F ムバタ展
3F 塔本シスコ展
2F
1F 塔本シスコ展



〒104-0061
東京都中央区銀座4-10-6
TEL.03-3547-9930
FAX.03-3547-9778
E-mail:info@nagai-garou.com
東京メトロ日比谷線・都営浅草線
東銀座駅 A2出口より徒歩30秒

